

特別インタビュー

# 近藤やよい区長に聞く



「独りではないことを実感しています」  
(6月22日、区長室で)

近藤やよい区長が6月20日、初登庁した。前都議会議員である氏にとって区職員との連携は未知数。就任挨拶では「裸の王様になることを恐れる」と明言し、職員に胸襟を開く強い意志を示した。就任3日目の6月22日、単独インタビューをした。(聞き手・中川美知子)

## 一票の力を生かしてみせます

就任3日目のご感想はいかがでしょうか。  
近藤区長 一番実感しているのは、(区職員と)「う」たさんのチーム

「独りではないことを実感しています」  
分らないことや相談を関係部にさぐくばらんに聞けるパイプがあることは強み。それよりも就任後、区議会へ向けての職員からの事業説明を受けている間に、かつて都議の立場で区民から区政への声を聞いていたことがとても役立つと感じました。職員の話も一方的に受けるのではなく、区民の声を判断の材料に加えられることはありがたい。まさに足場を持っていることは、都議出身の強みです。

有権者との約束「マニフェスト」を掲げるとの首長選挙でした。選んでいただいた漢字で名乗るといのは契約違反みたいじゃないですか。しかし戸籍を変えようとは大変なので、法的な効力が発生するものだけ「弥生」でいきます。

人前に出てよくやっていると自覚しています。自分がおっしゃれたらと思うことは全くないです。洋服は着て涼しい方がいいかなと白を着ることも多いですが、都議は自立した必要でしたが、今後は区長の立場をわきまえないと思えます。

議会と執行機関は車の両輪に例えられますが。執行機関がきちっとした資格を出して、それに対して議員の皆様方に指導していただくわけですね。区民の代表である皆様を尊重する意味で、きちっと互角の姿勢でいかなければなりません。どちらがアクセルをふかすきても車は事故を起こすでしょう。

私は透明性を掲げていますので、公用車と自家用車を使い分ける等、公私の別をはっきりさせていきたい。例えば選挙の応援は「私」。だから事務所も継続しておく。上司がきちんとやることで、コンプライアンスについても職員に徹底できます。交際費も明らかにします。透明性をきちんとすれば、公費で落とすものが限定されます。政治不信だけは避けたいと思っています。

「おしゃれなイメージがあります」  
スタイルと内容が合っていること、コンプレックスが強いんです。すぐに落ち込んでしまう。今までもたがなくなると、告白しても玉碎る

都議の初当選のときは鮮やかな色でしたね。あれは一つのロイヤリティですね。原色の服を着て、自分を奮い立たせていました。なんだ、そき落としてきたらどうもあんなに疲れましたね(笑)。自然体に近づいて

「継続は力なり」。じつは、人と同じことが同じスピードでできないほうなのです。勉強もできなかったし。枠にはめられて、人と同じことがどうしてできないんだという不幸が私には身に染みんでいます。自分の体験から、生きる力を育む教育とは、基礎的な学力を学校できちんとつけて、自分の居場所をつくらなければならないのだと思います。今後もし支援をよろしくお願いします。

## 職員とのチーム力大切に

役所外では公私の区別が難しいですね。

「う」たさんの名前が「近藤やよい」の通称名でいってほしいです。

「う」たさんの名前が「近藤やよい」の通称名でいってほしいです。

「う」たさんの名前が「近藤やよい」の通称名でいってほしいです。

「う」たさんの名前が「近藤やよい」の通称名でいってほしいです。